



# Moving Global

センコーグループ

第106期 | 中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日

## 中期経営計画初年度は増収増益でスタート。持続的な成長に向けてさらなる挑戦を続けます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。ここに第106期中間期における営業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。



センコーグループホールディングス株式会社

代表取締役社長 福田 泰久

### 当中間期の事業環境

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年9月30日)における経済環境は、新型コロナウイルスの感染拡大防止措置が緩和され、経済社会活動の正常化が進む中で、景気は持ち直しの動きが見られましたが、7月以降の感染再拡大、ウクライナ情勢の長期化や世界的な金融引き締めを受けて、先行きについては当面の間、不透明な状況が続くと見込まれます。

### 当中間期の取り組みと実績

電気料金ならびに燃料価格、仕入価格の上昇や、コロナ特需の剥落などがありました。経済社会活動の正常化の動きに伴う需要回復が見られる中、拡販ならびに料金・価格改定などにグループ全体で取り組むとともに、M&Aを推進した結果、営業収益、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期を上回る結果となりました。

### 事業別の取り組みと業績

物流事業では、経済社会活動の正常化の動きに伴う物量の回復が見られる中、電気料金ならびに燃料価格の上昇などがありました。拡販ならびに料金改定に取り組むとともに、M&Aの収益寄与があったことなどにより、営業収益は2,365億91百万円と対前年同期比240億21百万円の増収、セグメント利益は123億87百万円と対前年同期比12億71百万円の増益となりました。

商事・貿易事業では、前期に連結子会社化した家庭紙卸売の株式会社カルタスの収益寄与があったことに加え、価格改定ならびに拡販、コスト改善などに努めました。テイクアウト・デリバリーに使用する包材需要の減少や、仕入価格の上昇などがあり、営業収益は773億26百万円と対前年同期比57億5百万円の増収、セグメント利益は10億20百万円と対前年同期比95百万円の減益となりました。

ライフサポート事業では、日常生活の正常化の動きに伴う利用者数・来店者数の回復と、新規出店ならびに前期に実施したM&Aの収益寄与があったことなどにより、営業収益は160億58百万円と対前年同期比31億5百万円の増収、セグメント損失は6百万円と

対前年同期比5億17百万円の増益となりました。

ビジネスサポート事業では、拡販ならびにコスト改善に取り組むとともに、M&Aの収益寄与があったことなどにより、営業収益は48億24百万円と対前年同期比12億10百万円の増収、セグメント利益は4億60百万円と対前年同期比13百万円の増益となりました。

### 年間配当金は34円を予定

当社は、安定配当に加え、業績連動を考慮した配当を実施することを利益配分に関する基本方針としております。当期の中間配当金につきましては、1株当たり17円とし、年間配当金は期末配当金と合わせ、34円を予定しております。

今後も、当社はグループ一丸となって、さらなる発展に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

#### 免責事項

本報告書で記述されている将来についての事項などは、予測しない経済状況の変化などさまざまな要因の影響を受けるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。



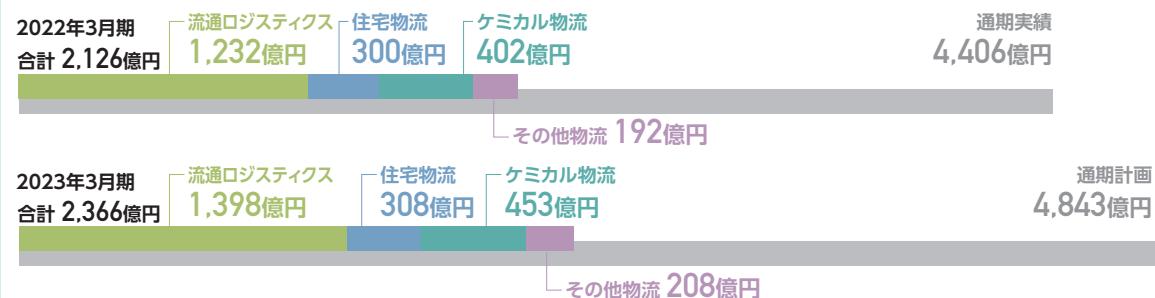
## 物流事業

営業収益 2,366億円 営業利益 124億円

### 当中間期の状況

経済社会活動の正常化の動きに伴う物量の回復が見られる中、電気料金ならびに燃料価格の上昇などがありましたが、拡販ならびに料金改定に取り組むとともに、M&Aの収益寄与があったことなどにより、営業収益は2,365億91百万円と対前年同期比240億21百万円の増収、セグメント利益は123億87百万円と対前年同期比12億71百万円の増益となりました。

#### 事業収入



#### 流通ロジスティクス

対前年同期比166億円の増収となりました。



#### 住宅物流

対前年同期比8億円の増収となりました。



#### ケミカル物流

対前年同期比51億円の増収となりました。



#### その他物流

対前年同期比16億円の増収となりました。



## 商事・貿易事業

営業収益 773億円 営業利益 10億円

### 当中間期の状況

前期に連結子会社化した家庭紙卸売の株式会社カルタスの収益寄与があったことに加え、価格改定ならびに拡販、コスト改善などに努めましたが、テイクアウト・デリバリーに使用する包材需要の減少や、仕入価格の上昇などがあり、営業収益は773億26百万円と対前年同期比57億5百万円の増収、セグメント利益は10億20百万円と対前年同期比95百万円の減益となりました。



## ライフサポート事業

営業収益 161億円 営業利益 △0億円

### 当中間期の状況

日常生活の正常化の動きに伴う利用者数・来店者数の回復と、新規出店ならびに前期に実施したM&Aの収益寄与があったことなどにより、営業収益は160億58百万円と対前年同期比31億5百万円の増収、セグメント損失は6百万円と対前年同期比5億17百万円の増益となりました。



## ビジネスサポート事業

営業収益 48億円 営業利益 5億円

### 当中間期の状況

拡販ならびにコスト改善に取り組むとともに、M&Aの収益寄与があったことなどにより、営業収益は48億24百万円と対前年同期比12億10百万円の増収、セグメント利益は4億60百万円と対前年同期比13百万円の増益となりました。



### 営業収益構成比

計 3,348億円

物流事業 70.7% 商事・貿易事業 23.1% ライフサポート事業 4.8%

ビジネスサポート事業 1.4%

## 新センターの開設による配送ネットワーク・サプライチェーン強化

### ロボット活用で作業効率を追求

～ウエルシア薬局様在庫型物流センター開設～

2022年8月にウエルシア薬局(株)様在庫型物流センターとして、センコー(株)が運営する「綾瀬ロジスティクスセンター」(神奈川県綾瀬市)を開設しました。

新センター内は、作業の大幅な効率化及び省人化を図る大型設備を導入します。これまで人がフォークリフトで行っていた出荷業務を作業者の確保しづらい夜間に自動倉庫とアームロボットが行い、日中に作業者が行うピース作業の前準備を完了させる仕組みとなっています。

当社は、新センターの開設によってお客様のサプライチェーンを支えると同時に、西関東・甲信エリアにおける事業基盤・配送ネットワークの強化を推進します。



綾瀬ロジスティクスセンター

### 埼玉地区でEC物流拠点を増強

～センコーさいたまPDセンターを竣工～

2022年4月に竣工した「センコーさいたまPDセンター」(埼玉県さいたま市)は、当社の不動産事業としてセンコー(株)へ賃貸する物流拠点として、「センコー泉南PDセンター」(大阪府泉南市、2022年3月竣工)に次ぐ2例目となります。

新センターでは、ネット通販大手企業様の商品保管や仕分け業務を行い、伸長著しいEC物流への対応を強化していきます。また屋上を緑地化し、太陽光パネルにより再生可能エネルギーを活用することで、カーボンニュートラルに向けた取り組みも進めています。

当社は埼玉地区のネットワーク力を発揮して、拡大する物流需要に柔軟に対応することで、さらなる事業拡大を図っていく考えです。



さいたまPDセンター

### 東京湾岸エリア・北海道で物流拠点拡大

～効率的な物流センター運営で顧客ニーズに対応～

2022年5月、「葛西第2PDセンター」(東京都江戸川区)を開設しました。東京都内のセンターでは常に満床状態が続いていましたが、新センター開設により約2万㎡の増床が可能となります。

また、9月には倉庫機能を併せ持つ「苫小牧車両センター」(北海道苫小牧市)を開設。長距離幹線輸送サービスの「物流バス」を推進するなかで、新センターは北海道と本州をつなぐハブ拠点としての役割を担います。また、小口配送事業の物量対応を増やすことで道南・道東まで配送エリアの拡大を図るとともに、拠点の拡充で北海道内のドレー事業の推進や本州向けの復荷獲得を図ることで、海上コンテナ事業の拡大も目指していく考えです。



葛西第2PDセンター



苫小牧車両センター

## 多様な事業領域の展開

### COSPAウエルネス(旧オーグスポーツ)をグループ化

～ライフサポート事業のさらなる成長へ～

2022年7月、大阪ガス(株)の100%子会社である(株)オーグスポーツの全株式を譲り受けました。

オーグスポーツは「コ・スパ」「FITBASE 24」「30peak」といったブランド名での直営フィットネスクラブ・スイミングスクール・テニスクラブを運営するほか、公共スポーツ施設の運営等、2022年4月時点で関西圏を中心に62施設を運営するとともに、ヘルスケア関連事業を展開しています。このたび社名を「(株)COSPAウエルネス」に変更し、フィットネス事業のエリア拡大や、介護事業と連携した新サービスの開発など、健康を領域とする事業の拡充を進め、当社のライフサポート事業の中核の一つとして、更なる成長を目指してまいります。



## 「環境・社会・ガバナンス(ESG)」に「健康(H)」を加えた「ESG+H」の取り組みにより、人と社会に新しい価値を届けます。

### 当社グループ初となる統合報告書を発行

2022年9月、「SENKO 統合報告書 INTEGRATED REPORT 2022」を発行しました。

これまでCSR報告書とアニュアルレポートで紹介してきた、当社グループの事業活動などの非財務情報と財務情報を、「つなぐ」をテーマに1冊にまとめたものです。事業を通じた価値創造ストーリーをはじめ、成長戦略に関するトップのメッセージ、さらに「E(環境)」「S(安全)」「S(社会)」「G(ガバナンス)」と「H(健康)」を切り口として、持続可能な社会の発展に貢献し、長期的な成長を実現するための事業展開について紹介しています。

本報告書を通して、社会への提供価値の拡大及び持続的な企業価値の向上に向けた当社グループの姿をご理解いただければ幸いです。



統合報告書の詳細はホームページをご覧ください。  
<https://www.senkogrouphd.co.jp/csr/report/>



### 「第23回物流環境大賞」で特別賞3件を受賞

センコー(株)、(株)ランテック、埼玉南センコーロジ(株)は、一般社団法人 日本物流団体連合会から「第23回物流環境大賞」の特別賞3件を受賞しました。同大賞は、優れた環境保全活動や環境啓蒙活動、あるいは先駆的な技術開発などで、物流業界の発展に貢献された企業などを表彰する制度です。受賞内容は次の通りです。

1. 物流拠点の移転による、トラック走行距離短縮／中継輸送導入によるドライバー労働時間削減(センコー(株))
2. 東西拠点間幹線の鉄道利用によるモーダルシフト(センコー(株)・埼玉南センコーロジ(株))
3. 車両大型化と鉄道コンテナへのモーダルシフト(株)ランテック)



### ESG+Hの取り組みに対する社外からの評価

持続可能な発展を目指した当社の取り組みが評価され、国内外のESGインデックスの構成銘柄に指定されています。今回新たに、「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」を取得いたしました。

#### 当社グループが選定されているESGインデックスと健康経営の顕彰

2022 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index



※MSCI指数への組み入れ、及び本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関連会社によるセンコーグループホールディングス(株)の後援、保証、販売促進ではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI及びその指数の名称及びロゴは、MSCIやその関連会社の商標またはサービスマークです。

社内アスリートを応援する企業イメージ動画を制作、発信

当社グループは、ESGに「H(健康)」を組み合わせた「ESG+H」を掲げており、2017年に「センコーグループ健康経営宣言」を行い、経済産業省と日本健康会議が共同で進める「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)～ホワイト500～」に5年連続で認定されるなど、社員の健康増進活動に積極的に取り組んでいます。

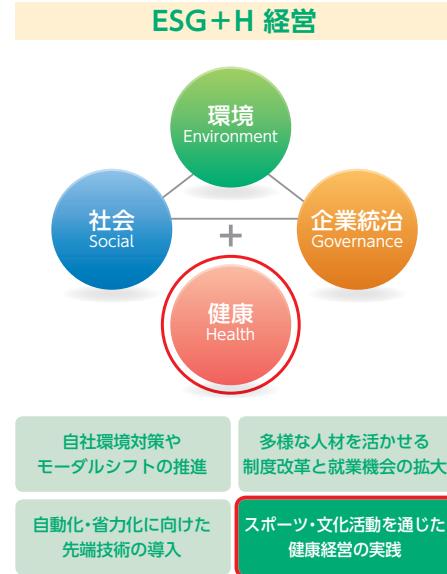
その一環としてスポーツ・文化活動を推進しており、実業団の活動と業務を両立する社内アスリートの活動支援や、スポーツや文化活動支援を通じた社会貢献活動も積極的に展開しています。

今回制作した動画は、柔道部、ゴルフ部、剣道部、テニス部、陸上競技部の各実業団チームに所属する5組の社員が、仕事に向き合う姿勢や実現したい目標・夢などを語る様子、仕事や練習に一生懸命取り込む姿を、生き生きとした表情を通じて、グループの社風などを視聴者に感じてもらうことを意識して制作しました。「アスリートを全力で応援」というCMも制作し、YouTubeやテレビで配信しています。

人々の生活を支援する事業を展開する当社グループは、「あたりまえの暮らしのそばに」をキャッチコピーに、企業認知度の向上を目的とした広告展開を今後も続けていきます。



企業イメージ動画の詳細はこちらをご覧ください。  
<https://www.senkogrouphd.co.jp/about/mediagallery/>

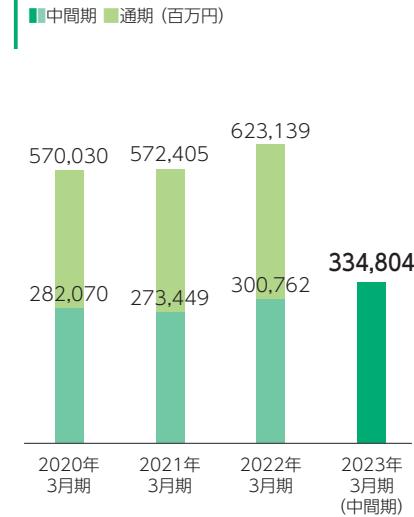


財務ハイライト

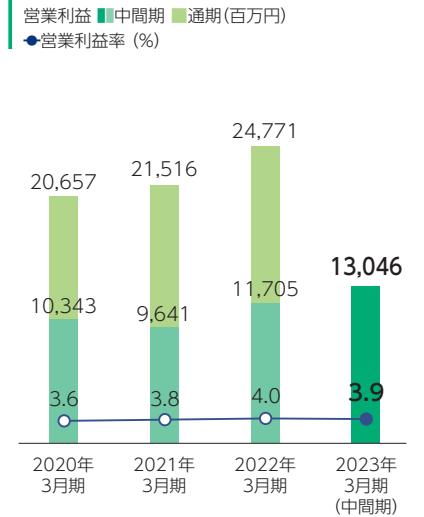
決算のポイント

- 1 営業収益・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益はいずれも前年同期を上回る。
- 2 総資産は前期末に比べ322億円増加、純資産は94億円増加。自己資本比率は30.3%。
- 3 中間配当金は1株当たり17円、年間配当金は5月公表の計画通り34円を予定。

営業収益



営業利益/営業利益率



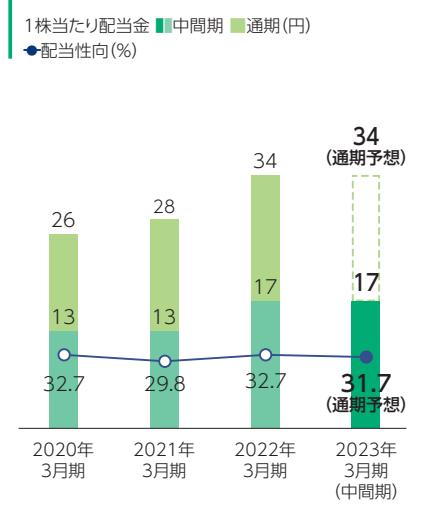
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益/自己資本利益率(ROE)



総資産/純資産/自己資本比率



1株当たり配当金/配当性向



## 会社概要 (2022年9月30日現在)

商号	センコーグループホールディングス株式会社 (SENKO Group Holdings Co., Ltd.)
創業	1916年9月
設立	1946年7月
本社所在地	東京都江東区潮見二丁目8番10号
資本金	284億79百万円
グループ従業員数	21,503名
グループ会社数	163社(子会社149社、関連会社14社)

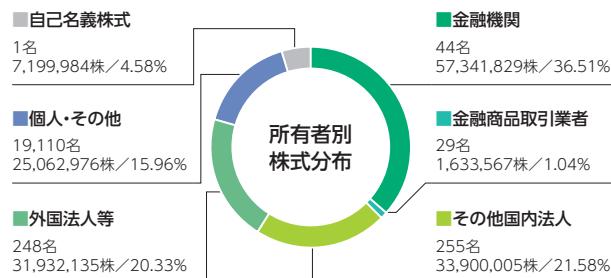
## 役員 (2022年9月30日現在)

代表取締役社長	福田 泰久	常務執行役員	藤田 浩二
取締役 常務執行役員	佐々木 信郎	常務執行役員	大野 茂
取締役	米司 博	常務執行役員	竹谷 聡
取締役	谷口 玲	常務執行役員	増田 康裕
取締役	杉本 健司	執行役員	篠原 信治
取締役	高梨 利雄	執行役員	森口 嘉久
取締役	嘉永 良樹	執行役員	森口 孝司
取締役	飴野 仁子	執行役員	野村 康則
取締役	杉浦 康之	執行役員	田中 正志
取締役	荒木 葉子	執行役員	小久保 悟
取締役	奥野 史子	執行役員	山崎 真人
常勤監査役	上中 正敦	執行役員	新田 浩隆
常勤監査役	齋田 正己	執行役員	森岡 直人
常勤監査役	松友 泰		
監査役	岡野 芳郎		

## 株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	294,999,000株
発行済株式総数	157,070,496株
株主総数	19,687名

## 所有者別株式分布



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.senkogrouphd.co.jp">https://www.senkogrouphd.co.jp</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 株式に関する「マイナンバー制度」のご案内  
税務関係のお手続きのため、株主さまから、お取引の証券会社などへマイナンバーをお届出いただく必要があります。お届出のお手続きについては、口座を開設されている証券会社などへお尋ねください。



URL <https://www.senkogrouphd.co.jp>

〒135-0052

東京都江東区潮見二丁目8番10号

公式Instagram  
[senko\\_group.official](https://www.instagram.com/senko_group.official)



リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。